

◎景気ウォッチャー調査[2021年10月]

2021年10月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を9.2ポイント上回る54.0となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「緊急事態宣言解除に伴い、時短要請やアルコール提供制限も全面解除され、大学などの対面授業も始まったため、駅周辺の人出が格段に多くなっている。飲食施設や観光施設などの営業も通常に戻り、宿泊の需要喚起策の再開で、観光客の先行予約も増加している。宴会需要の変化は余りないが、キャンセルは減少している。」(都市型ホテル)、「県内だけでなく、県外からのビジネスマンや観光客の利用が増加しており、夜の外出者も増えている。」(タクシー運転手)等の理由から、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を13.6ポイント上回る55.7となった。

企業動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「半導体不足による自動車メーカーの生産の減少や燃料単価の高騰のあおりを受けている。」(輸送業)、「新型コロナウイルス禍の現地操業の低下や半導体不足の影響で、海外からの部品供給が滞っているため、客からの受注が大幅に減少している。」(輸送用機械器具製造業)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を5.9ポイント下回る46.3となった。

雇用関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「飲食店を始めとして、求人数は着実に増加している。」(求人情報誌製作会社)等の理由から、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を9.0ポイント上回る57.4となった。

	10月	9月	前月差
合計	54.0	44.8	9.2
家計動向関連	55.7	42.1	13.6
企業動向関連	46.3	52.2	-5.9
雇用関連(参考値)	57.4	48.4	9.0

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を2.9ポイント上回る58.1となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの鎮静化や宿泊引等による支援により、景気は良くなる。」(観光型ホテル)、「新型コロナウイルスの一時な落ち着き、県の経済対策、冬のイベントの実施などで、景気はやや良くなる。」(テーマパーク)等の理由から、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を3.9ポイント上回る59.7となった。

企業動向関連は、「原燃料価格の高騰が収益を悪化させるため、景気はやや悪くなる。」(化学工業)、「自動車の減産や中国の電力事情などの影響が懸念されるため、景気はやや悪くなる。」(鉄鋼業)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を1.5ポイント下回る50.7となった。

雇用関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「緊急事態宣言の全面解除やワクチン接種の進展を背景に、今後、個人消費や企業の設備投資が活発になる。」(民間職業紹介機関)、「10月以降、保育・幼児教育系の新卒募集が本格化するため、景気はやや良くなる。」(学校)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を4.0ポイント上回る61.8となった。

	10月	9月	前月差
合計	58.1	55.2	2.9
家計動向関連	59.7	55.8	3.9
企業動向関連	50.7	52.2	-1.5
雇用関連(参考値)	61.8	57.8	4.0